

平成26年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 学習指導と進路指導の充実を図る。 個に応じた指導による基礎・基本の定着と確かな学力の増進に努める。	① 年間を通して校内公開授業とし、授業研究を充実させて授業改善を促進する。 また、全教科共通のテーマで研究協議会を持ち、協議内容を全職員で共有する。	教務課 各教科	他教科の授業も含め、参観が日常的に行われるようになった。今後は授業後の研究協議会を充実させ、教科全員で授業改善に向けた検討を継続的に行う土壌を作る必要がある。	【努力指標】 年間を通し積極的に授業参観を行う。また、各教科で研究授業や研究協議会等を実施し、授業改善へ向けた具体的な取組について検討する。なお、研究協議会等での成果や課題は全職員で共有する。	他の教員の授業を参観した回数が年間5回以上の教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	2月に調査するが、9月末時点で5回以上実施した教員は31.7%であった。
	② ICT機器を活用した、より効率的で効果的な授業を実践する。	教務課 情報課 各教科	若干名の教員を中心にICT機器を利用しての授業が実践されているが教職員全体には広がっていない。	【努力指標】 ICT機器を活用して、よりわかりやすい授業実践を継続的に行い、スキルを全体で共有する。	ICT機器を活用した授業を実践した教員の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	2月に調査するが9月末時点で3回以上使用した教員は46.5%であった。
	③ 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	教務課 各学年 各教科	国数英を中心に週末課題を与え、提出を評価に加え、学習習慣の確立を図っているが、生徒の取り組みがまちまちで習慣の確立に至っていない。	【成果指標】 各教科で計画的に週末課題を含む課題を効果的に与え、その提出を徹底させて、家庭学習習慣を確立させる。	課題の提出率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは73.6%であった。
	④ キャリア教育の充実とともに、個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう教育活動を行う。	進路指導課 各学年	2年次夏休みに実施したインターンシップ体験はPTAや同窓会のバックアップをいただいた。今年度は更に事前研修を充実させより効果的な取り組みとしたい。	【満足度指標】 本校でのキャリア教育が計画的かつ効果的に機能し、進路目標が明確化している。	本校でのキャリア教育が意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは83.7%であった。
2 基本的な生活習慣や倫理観を確立し、豊かな人間性と社会性を育成する。 時間厳守、ルール遵守、言葉遣いや礼儀作法、服装容儀の指導を推進する。	① 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導を全職員で行う。	生徒課 各学年	定期的な登校指導・服装指導の他に、終礼時等に、学年の正副担任による服装容儀指導を実施している。頭髪については、良くなっている。	【成果指標】 服装や頭髪などの身だしなみが人の「心を表す」ものであるという自覚を持ち、服装容儀に関する生徒心得を遵守している。	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは92.4%であった
	② 全教職員で協力し、遅刻の減少を目指す。	生徒課 各学年	遅刻に関しては継続した厳しい指導をしているが、高校生としての自覚と基本的な生活習慣の改善が必要である。	【成果指標】 遅刻者数が前年度(531件)を100件以上下回ることを目指す。	年間の遅刻者の延べ人数が A 430人以下である B 480人以下である C 530人未満である D 530人以上である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に集計・評価するが、9月末時点で221人(昨年230名)であった。
	③ 構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	教育相談室 各学年 各教科	生徒同士での人間関係のトラブルを予防し、温かい人間関係を築くために、生徒に人間としての在り方・生き方を考えさせる取り組みを継続的に実践していくことが望ましい。	【満足度指標】 構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、温かい人間関係づくりに役立てる。	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、温かい人間関係づくりに役立ったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施の生徒アンケートでは71.3%であった
	④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒課 各学年	地域に根ざした奉仕活動として地域清掃を行っていたが、清掃以外にも地域のいろいろな方々と積極的に関わられる奉仕活動の機会を企画、実施したい。	【努力指標】 年間を通して近隣地域での各種ボランティア活動に取り組む機会を設定し、生徒のボランティアに対する意識を高める。	生徒が近隣地域での各種ボランティア活動に参加する回数が A 25回以上である B 20回以上である C 15回以上である D 15回未満である	C評価以下の場合、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に集計するが、9月までで13回の取り組みが行われている。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
	⑤ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO ₂ 排出の削減等を目指すとともに、環境保護の精神を培う。	保健環境課 各学年	「学校版環境ISO」に基づき、本校教員は具体的数値目標の達成に向けて高い意識を持つようになったが、生徒に対しては理解をより働きかける必要がある。	【成果指標】 生徒・教職員全体がエコ活動に積極的に取り組む。	エコ活動に積極的に取り組んだと答える生徒・教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	9月実施のアンケートでは、生徒75.5%、職員100%、総合で77.6%であった。
3 時代を生きぬく、意欲的で活力のある人間の育成を図る。 部活動や生徒会活動の活性化、健やかでたくましい心と体の育成に努める。	① 1年生には全員部活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	生徒課 各学年	3年生の部活動加入率が75%と若干低迷しているが、1、2年生に対して様々な機会を通して部活動に参加するよう働きかけ、活性化する必要がある。	【成果指標】 部活動の加入者をさらに増やすとともに、実際に活動している生徒の割合を増やし学校全体の活性化を図る。	部活動に加入し、活動している生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	6月時点では全体で87パーセントであった。
	② 体力測定記録の更新を意識づけ、全学年を通して体力の向上を目指す。	体育科	年々運動への意欲が希薄な生徒が増加し、体力の低下が危惧される。運動に対する意欲に欠ける生徒に対しての指導を強化する。	【成果指標】 5月、1月にランニングロード(1周130m)男子20周、女子10周におけるタイム測定を行い、記録向上を目指す。	5月、1月のタイムを比較して、向上したものの割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	5月、1月に調査する。
	③ 生徒一人ひとりが充実感・達成感の得られる生徒会行事を企画・運営する。	生徒課 各学年	新入生歓迎会・スポーツ大会・学園祭等の行事には、積極的に参加してはいるが、企画・運営面まで精力的に取り組んでいるとは言えない。	【満足度指標】 生徒会行事への参加が充実したものとなり、達成感が得られる。	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	行事後の生徒によるアンケート集計では平均89.6%が充実感・達成感を得られたと回答
4 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。 広報活動の充実や校種間交流、地域と連携した取り組みを積極的に行う。	① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	各コースの特性を活かした取り組みを充実発展させるとともに、特に普通コースの取り組みを積極的にアピールし外部に周知できる広報活動が求められる。	【満足度指標】 各コースの特色を活かした地域や小中学校等との交流活動等に取り組み、その広報活動を強化する。	各種の交流活動が活発であり、その広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月実施の保護者アンケートでは90.8%であった。
	② ホームページを刷新し、更新を定期的に行い、地域や小中学校等との交流や学校行事など、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。	総務課 各コース	ホームページの更新が滞り、多くの方々から御指摘をいただいている。ホームページを刷新し魅力あるものに作りかえる。	【満足度指標】 ホームページ全体を刷新するとともに情報の更新を速やかに行う。各コースの特色を活かした教育活動の取り組みがわかるように内容を順次改善する。	ホームページを通して学校の交流活動や教育活動に関する情報の発信が適切に行われ、わかりやすいと答える保護者の割合が A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	12月に保護者によるアンケートで調査する。現在全面改定中である。
	③ 保護者の携帯電話へのメール配信を行い、PTAとの連携を深め、本校の教育活動の円滑化と活性化を図る。	総務課 各コース	昨年度までの携帯メール登録率が70%弱であり、学校からの情報発信が徹底できない状況にあった。より細やかな情報を流すことで利便性を理解していただく必要がある。	【成果指標】 タイムリーで詳細な情報を逐次発信することで利便性を実感していただき登録率を高めるとともに教育活動の更なる理解へと繋げる。	メールを登録している保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 75%以上である D 75%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	9月末現在の登録割合は72.1%(1年83.6%、2年75.9%、3年56.9%)であった。